

平成26年第2回伊賀市議会（定例会）

請 願 文 書 表

平成26年2月27日

1 受 理 番 号	請願第9号
2 受 付 年 月 日	平成26年2月19日
3 請願者の住所 及び氏名	津市柳山津興1535-23 三重県社会保障推進協議会 会長 林 友信
4 請 願 の 件 名	「要支援者への介護予防給付の従来どおりの継続」「特別養護老人ホームへの入所を要介護3以上に限定せず従来どおりとすること」「利用者負担増の中止」を求めることについて
5 請 願 の 要 旨	<p>社会保障・税一体改革の一環として介護保険見直しを検討してきた厚生労働省は、社会保障審議会介護保険部会で12月20日に「介護保険制度見直しに関する意見」（以下「見直し意見」）をまとめました。その内容は、介護保険制度の掲げた「介護の社会化」を縮小させ、利用者、ご家族、介護事業所、労働者、自治体等に大きな負担を負わすものです。</p> <p>給付の抑制を図ることを口実に、「要支援者」を介護保険の給付対象から外して市町村が裁量で行う地域支援事業に移行、施設入所を要介護3以上に限定、一定以上の所得がある利用者の負担引き上げが盛り込まれています。</p> <p>地域支援事業の財源は一定の範囲内で介護保険財政から支出されるものの、事業内容は市町村の裁量とされ、介護にあたる人員や運営の基準もなく、ボランティアやNPOなどの「地域力」を活用することになります。しかし、地域の受け皿は十分ではなく、市町村との懇談会でも「同じようなサービスは実施できない」と行政も認めています。</p> <p>さらに、多くの利用者が訪問介護・通所介護のサービスから外され、報酬が下がることになれば、多くの介護事業所の経営は大変困難になることも予想され、事業所の縮小・閉鎖、職員の非正規化や賃金の切り下げなどによる介護職員の離職がさらに進むことも危惧されます。</p> <p>また、特別養護老人ホームの入所を原則要介護3以上の高齢者に制限するとしていますが、すでに入所している人が要介護1、2に改善した場合、経過措置が過ぎてからは追い出す方針も打ち出されています。介護施設の入所待機者は全国で42万人、そのうち要介護1、2の人は31%にも上っています。これでは、要介護1、2の高齢者の行き場所がなく「介護難民」という事態にもなってしまいます。現場の実態とかけ離れた制度改定案はきっぱり撤回すべきです。</p> <p>制度開始以来、介護保険料は改定のたびに上がっており、そのうえ利用料負担を上乗せすることは、必要な介護を奪うことに繋がるのではないかと懸念が広がっています。国の責任で制度の持続可能性と公平性を確保すべきと考えます。</p> <p>以上の趣旨から、下記について地方自治法第99条の規定により国に意見書を提出くださるよう要望するものです。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 要支援者に対する介護予防給付を従来どおり継続すること 2. 特別養護老人ホームへの入所を要介護3以上に限定せず、従来どおりとすること 3. 利用者負担を増やさないこと 4. 介護保険財政に国が責任を持つこと
6 紹 介 議 員	田中 覚、稲森稔尚
7 付 託 委 員 会	教育民生常任委員会

1 受 理 番 号	請願第10号
2 受 付 年 月 日	平成26年2月19日
3 請願者の住所 及び氏名	伊賀市石川2067 伊賀市サッカー協会 会長 上林 良敏
4 請 願 の 件 名	平成33年みえ国体開催並びに平成32年東京五輪キャンプ招致に向け、スポーツ施設の整備拡充を求めることについて
5 請 願 の 要 旨	<p>市民だれもが生涯にわたって気軽にスポーツ活動に親しむことのできる生涯スポーツ社会を実現するために、また、競技スポーツの普及・振興及び競技力向上のために、さらにはスポーツツーリズムの確立を推進することで本市への観光誘客を促すため、その基盤となるスポーツ施設の整備拡充を強く求めるものです。</p> <p>特に、当サッカー協会は、平成33年みえ国体開催に向けサッカー種目の開催を強く推進し、本市におけるサッカー文化の醸成並びに発展を期待するところであります。また平成14年開催の男子サッカーFIFA日韓ワールドカップにおいては、南アフリカ代表チームの直前合宿地として利用いただいております。つきましては平成32年東京五輪におきましても、サッカーにとらわれず候補となりうる種目を検討いただき、キャンプ招致をすることにより、伊賀市ひいては伊賀市民もスポーツの祭典である五輪を主体的に迎えることができると考えます。スポーツ活動によるまちづくりも全国的に多くの自治体で取り組まれており、スポーツ文化の醸成は本市発展のために的確かつ有効な手段であると考えます。みえ国体後並びに東京五輪後のスポーツの利活用もご一考頂き、現在脆弱なスポーツ活動基盤を、早期に整備拡充されることを請願するものであります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成33年みえ国体におけるサッカー種目の招致 <p>前回の国体におきましても本市ではサッカー競技を開催しております。平成33年みえ国体も前回同様サッカー競技の開催が適切であると考えます。サッカー文化の醸成も踏まえ、サッカー競技（女子サッカー）の招致を強く要望いたします。</p> 平成32年東京五輪におけるキャンプの招致 <p>平成14年男子サッカーFIFA日韓ワールドカップの際には、南アフリカ代表チームの直前合宿地として利用いただきました。平成32年東京五輪におきましても、サッカー競技のキャンプ招致もしくは、別競技のキャンプ招致を検討いただくことを強く要望いたします。</p> グラウンドの芝生化 <p>本市におけるサッカーの競技環境は、決して良好といえるものではありません。特に、芝生グラウンド（天然芝・人工芝双方）が少なく、青少年の競技力向上においては弊害となっていると言っても過言ではありません。また、みえ国体サッカー競技開催に向けては、上野運動公園陸上競技場だけでは非常に厳しいと考えます。他にも、グラウンドを芝生化することで東京五輪キャンプ招致や各種大会の開催も容易になり、スポーツツーリズムの確立には不可欠な要素であるなど多面の効果が期待できます。よって、早急に芝生グラウンド（天然芝・人工芝双方）の施設整備を強く要望します。</p> Jリーグ基準スタジアムの整備検討 <p>現在、本市のスポーツ施設は非常に脆弱であります。また、全国的</p>

	<p>に見てもプロ野球並びにJリーグの公式戦が出来ない県は三重県と島根県だけです。みえ国体後の伊賀市ひいては三重県におけるスポーツ文化の醸成も見据え、Jリーグ基準のスタジアム整備の検討を強く要望します。</p>
6 紹介議員	<p>赤堀久実、市川岳人、嶋岡壯吉、田中 覚、生中正嗣、 稲森稔尚、上田宗久、木津直樹、森 正敏、北出忠良、 岩田佐俊、安本美栄子、中岡久徳、森岡昭二</p>
7 付託委員会	<p>教育民生常任委員会</p>